

（午後3時20分 再開）

○議長（石橋英和君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番6、17番 松本君。

〔17番（松本健一君）登壇〕

○17番（松本健一君）皆さん、こんにちは。ちょっと詰まりましたけども、今日これがラストかどうか分からないですけれども、しっかりと勤め上げたいと思います。通告に従い、4項目の質問を行います。

質問1番目、人口流入を促進させる住宅販売折り込み支援策についてお尋ねいたします。

「週刊東洋経済」8月3日号一住んで損する街・得する街一、今日、皆さんのお手元には一部ありますけれども、この雑誌を持ってまいりました。今日、5番議員が取り上げられた財政力指数や負債率というものここに詳しく載っております。首都圏・関西圏、212自治体の行政サービスを徹底比較する特集ということで、議員の皆さんにコピーを配付させていただいたところの記事ですけれども、「出産・子育てしやすい街ランキング」で、有田市に次いで橋本市は関西圏2位、大阪通勤圏では実質1位を意味します。自然環境、橋本市の政策が認められ、ハード・ソフト両面、それにまちの安全度が高く評価された結果だと思えます。

しかし、住宅政策は建て替えやリフォームなど、消費税導入前効果が少し見えるものの、新築販売が堅調に伸びているとは言えません。特に、南海沿線の住宅購入潜在層へどれほど伝わっているのか疑問です。

そこで、市内住宅販売業者に南海沿線都

市へ新聞折り込み広告を行う際、橋本市の子育て支援策や住宅購入支援策の記事掲載をすれば、費用補助を助成する制度を創設してはいかがでしょうか。

質問2番目。溝端淳平さんを観光大使に、と題し質問いたします。

ドラマ・バラエティ番組で毎日のように脚光を浴び活躍の恋野出身者、第19代ジュノンボーイ、俳優・タレント、溝端淳平さんに観光大使をお願いし、全国に橋本市をPRしていただいてはどうでしょうか。

「恋のマッシュルームカレー」、ここに空き箱だけ持ってきております。これ、今、300円で売り出しが決まったそうです。また問い合わせただければいいかと思えます。本当においしかったです。この「恋のマッシュルームカレー」を食すところをブログで取り上げていただいだけでも、地域活性と本市のイメージアップに大きな効果が期待できます。

質問3番目、紀見小学校「わくわくサマースクール」のこれからとエアコン設置についてお尋ねいたします。

紀見小学校では、地域の方々が講師、先生となり、夏休みの児童の居場所づくりに学校施設を使って講習会を行う取り組み「地域ふれあい事業」が、試行錯誤段階の初年度を入れ4年目を迎えます。

年を追うごとに講師、参加者、また手伝う保護者、ボランティアも増え、施設上の問題が感じられます。つまり、エアコンがコンピュータールームにしかなく、調理室・工作室など、汗をかく作業がある場合、大変暑い思いをしておられます。

一方、地区公民館は冷暖房施設があります

が、収容能力と場所が城山台住宅地内にある紀見地区公民館と離れていることと、行事予定も既に埋まっている状況。

そもそも公民館区が広範囲で、人口増が続いている紀見小学校区に公民館がないことが、サマースクールを始めるきっかけでした。公民館がなく、小学校もコミュニティ事業がなかったときには、地域間のつながりも希薄で、学校も問題を抱え、解決のため、サマースクールをはじめとする、ふれあいルーム設置、夏祭り、防災キャンプ、ユネスコスクール申請など、さまざまな取り組みが周辺住民やマスコミからも認知され、ボランティア受け入れも増えました。

多額の費用がかかる公民館建設を望んでも難しいことは理解しますが、せめて小学校へエアコン導入ができれば、公民館的役割をコミュニティが主体的に運営を活発に行っていけば、地域の目が守る安全・安心な学校となります。

また、年々気温が高くなる中、夏の猛暑で中学校も授業に集中しにくく、県立・私立に設置されている状況から、市立中学校のエアコン整備も進めるべきです。

質問4番目、橋本駅前地区市街地再開発事業の再開可能性についてお尋ねいたします。

本市は、世界的権威ミシュラン三ツ星観光地で年間150万人が訪れる高野山の麓に位置します。3月に三ツ星選定された効果か、この夏、高野山へサマーバケーションを利用し、多くのヨーロッパ観光客があり、多くは南海電車を利用する個人旅行者です。当然、橋本市で乗り換え待ちで旅行者を見かけることも多くありますが、ほとんど一歩も駅から出ず、通過させてしまっているありさまです。

現在、中心市街地第一地区土地区画整理事業で橋本駅前線拡幅に伴い、区画整理事業が進行しておりますが、橋本駅前地区市街地再

開発事業なしでは活性化どころか衰退に向かう懸念と、市全体の沈滞につながっていくのではと心配です。21世紀型のまちづくりはコミュニティ、コンパクト、脱モータリゼーション、観光などキーワードはたくさんあります。中心市街地の利用には、全市民に公平にサービスを届ける立地条件が必要であり、図書館、中央公民館は中心市街地にこそ必要な施設です。平成11年市街地再開発事業推進計画では、保健福祉センター機能が盛り込まれていましたが、当施設は既にでき上がり、図書館・中央公民館を残すのみ。

再開発事業に関して、政務活動費を活用し、8月1日・2日、全国市町村国際文化研修所で開かれた議員セミナーに参加し、前の高野副町長高橋寛治氏より、長野県飯田市で取り組まれた市内起業でゼネコン・デベロッパーを利用しない取り組みをお聞きしました。地方自治は飯田に学べと、最近の政策セミナーでは太陽光、まちづくりをはじめ、さまざまな自立都市の取り組みが評価されている飯田市。7月、太陽光視察で同市へ行く機会に恵まれましたが、何も知らずに訪れた「リンゴ並木ロード」周辺市街地再開発事業のすごさに驚いた次第です。

高橋氏とその後も懇談を重ね、「高野町の発展は橋本市の発展なしになく、橋本市の発展は高野町の発展なしにない」と檄をいただきました。「橋本市は良い宝を持っている」ともおっしゃられ、困難をチャンスに好転させる政治・行政力が民間力を呼び起こし、国を動かす気概が今こそ求められています。市の見解を求めます。

以上、4項目質問いたします。

○議長（石橋英和君）17番 松本君の質問項目1、人口流入に向けた住宅販売折り込み支援策に関する質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（森川嘉久君）登壇〕

○企画部長（森川嘉久君）人口流入を促進させる住宅販売折り込み支援策についてお答えします。

議員ご質問の「週刊東洋経済」8月3日号によると、「住みやすい街ランキング」として四つの分野に区分し、首都圏及び関西圏への通勤圏内とする212市区を対象に、出版社が独自の評価方法で順位付けを行っています。

この四つの分野のうち、「出産・子育てしやすい街ランキング」において、本市が関西圏第2位となったことは、本市の行政サービスや子育て環境などが相対的に高い評価を受けたということになります。評価の内訳としては、認可保育所定員数、月額保育料、小児科・産婦人科医数、都市公園面積、刑法犯認知件数、合計特殊出生率の計6項目により総合順位を算出しています。

本市では、当ランキング評価の6項目以外にも、市単独で小学校修了前までの医療費助成制度など、さまざまな子育て施策を行っており、本市の基本構想の一つの柱でもある「健やかで安心して暮らせるまちづくり」の実現に向け、取り組んでいるところです。

さて、本市では本年度、子育て施策だけでなく、さまざまな施策をまとめた電子媒体のカタログを制作し、定住・移住促進のための情報発信のツールとして利用する予定であり、今回の「週刊東洋経済」のランキング情報についても盛り込んでいこうと考えています。

議員おただしの、「市施策PRのための市内住宅販売事業者に対する広告助成制度の導入」については、民間のネットワーク等を活用した有効な方策であると考えますが、助成の必要性も検討した上で、今後、調査・研究をしてまいりたいと考えています。

○議長（石橋英和君）17番 松本君、再質問ありますか。

17番 松本君。

○17番（松本健一君）まず、お答えいただいたところで、今回、今年度の予算の中にカタログをつくるというのは、新年度予算のときにお尋ねさせていただいて出てきたかと思えます。その審議の際に、つくっていただけるのはいいけれども、結果的にそれをどこで広報していくのかということでお尋ねさせていただいて、私なりに要望というか、そのとき浮かんだ案として、駅前で配っていただければと。南海沿線の駅で配れば、何かしらの効果はあるんじゃないかというふうに付け加えさせていただきました。

ただ、この件に関してずっと考えていたんです。本当に効果的な方々に届くのかどうか。その沿線の方々が、住宅を求めるときにどのように情報を得ようとするか。私自身もこの橋本市へ転入してきた転入組です。そのときに私が目にしたのは、五條市で折り込みチラシがあったんです。その五條市で得たチラシを参考にして橋本市の住宅を探しました。

やはり、橋本に行ってから探すというよりも、自分たちが住んでいるところであったりとか、勤めている周辺のところが一番手取り早いのは、今日もちょっと持ってきたんですけど、これは、この土日で折り込みで入った分で6社ほどあったんですけど、今回の施策を掲載していたのは残念ながら1社だけでした。ただ、これも流れが、波があるので、必ずしもそうとは言えないと思います。

しかし、今回カタログをせっかくつくっていただいて、それをどこかで使わないといけません。業者の方々にとってみると、こういったカタログでまとめられた情報、どのように掲載していくべきかなというふうに見たときに、そのままの記事を自分の広告媒体に載せやすい環境には整ったと思うんです。まず、

行政情報の一番難しいところは、羅列してしまう。これをされると、またまとめ直すのが大変になってくるので、そういった意味では一歩進んだと思います。

で、その折り込みを住宅販売の方々が入れようと思うときに、確かに南海とか大手のところは、自分のところのラインで、配りやすいとか折り込みを入れやすいんですけども、小規模の不動産会社にとってみると、日々のチラシをまくだけでもすごいコストがかかってくるので、だいたい不動産屋に行くところと輸送機が置いてあるんです。仕事の中で印刷をかけて、それを折り込み屋のところを持ち込む、そういうことをされています。すごく経費的に負担がかかってくるので、いくら市外のところに出したいなと思っても、効果的のところを選びたい。そのときに、市から補助が、この項目が出てくるというふうになってくると、たとえ1回でも市外に広告を打ってみようというふうな働きかけになると思うんです。こういう働きかけをしていただかないと、1回1回、このカタログができた。駅で職員さんたちが配る。何人で配るかかわからないですけども、その人件費を計算していただきたいんです。それだけの人件費をかけるのであれば、専門的な方々が、自分たちが効果が上がるというところに折り込みを入れていただいたら、これほど効果が上がるものはないかと思います。その点に関して、どのような見解をお持ちか、お尋ねさせていただきます。

○議長（石橋英和君）企画部長。

○企画部長（森川嘉久君）以前から南海の関係の住宅販売会社等については、市の施策、こういう公共施設ができますよ的なことについてはチラシの中へ盛り込んでいただいて、販売促進策の一環にさせていただいたこともあるかと思えます。そのときはもちろん無料で、

情報提供だけさせていただいて、業者のほうも、それについては販売上有利なことになってきますので、もちろん無料で掲載していただいたわけですが、そういうことを考えますと、今回、素材は提供させていただくんですけども、それから先ほども出ておりましたが、住宅助成制度にしても、ある意味住宅販売にも好影響をもたらす施策ではあるというふうに思っておりますので、そういう面では、できるだけ、載せることについては、無料でご協力をいただけるものならそういうふうにしていただきたいというのが、今のところの基本的スタンスでございます。

ただし、議員ご指摘の点もございまして、どういう形で、公金でございまして、支出できるものかどうかということも含めまして、ちょっと研究はさせていただきたいと思っておりますが、業者にもメリットがあるというところの、特に広告についてということになってきますので、そこらあたりは、ちょっと慎重に検討させていただきたいと。公金の支出という面で、十分考えさせていただきたいというふうに考えます。

○議長（石橋英和君）17番 松本君。

○17番（松本健一君）公金の支出に関しては、人件費もしっかりと見ていただきたいと思います。配布に関してもお金はかかります。職員が配っていくのもお金かかる。これも計算に入れていただいて、何が費用対効果の意味で効果的かという判断をしていただきたいことを要望させていただいて、1番目を終わらせていただきます。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目2、溝端淳平さんを観光大使にとの質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（大倉一郎君）登壇〕

○経済部長（大倉一郎君）溝端淳平さんを観

光大使に、についてお答えします。

観光大使は、地域にかかわりのある著名人を任命することで、観光PRに限らず、地域振興の観点からも活用している自治体が広がっています。観光大使を任命してPR活動を行うことにより、他の地域ではあまり知られていない地元の観光スポットや特産品などをより多くの人に知ってもらい、地域の経済効果につなげることが期待できます。

溝端淳平氏については、全国的に認知度が高く、幅広いファン層に支持されている非常に情報発信の高い人物と認識しています。過去に何度か地元イベントに参加要請した経緯もありますが、いずれも所属事務所の都合によりお断りされており、観光大使の承諾をいただくのは大変困難であると思われま

す。しかし、本市ではスケジュール調整など人的、金銭的負担をかけないスタイルで観光大使として協力いただけるような方法を検討し、ふるさと橋本市を広くPRしていただけるようお願いしていきたいと考えます。

○議長（石橋英和君）17番 松本君、再質問ありますか。

17番 松本君。

○17番（松本健一君）観光大使にお願いしに行くにしても、部長が訪ねて行かれたりとか、担当課のほうから言うよりも、ここは私は、市長がそれこそ声をかけていただければ、一番効果的だと思うんです。これ、ことわざというか、故事がありますよね。三顧の礼といいます。三顧の礼。やはり、社会的に上下関係が明らかにあるような関係、橋本市にとってみて一番の顔となるのは市長だと思います。そういったところで、市長が頭を下げて三回行ってもらったなら「うん」と言ってくれるかもしれません。その点、できる限り努力をしていただきたいと思いますが、市長、どうでしょうか。

○議長（石橋英和君）市長。

○市長（木下善之君）溝端淳平さんのことであるんですけども、去年の12月から交渉しておりまして、今年の1月の元旦に市長室へ来ていただきました。そうして早速いろいろ話の中で、宣伝のことをお願いしたわけですが、どうして、どうしても、何て言うんですか、所属の事務所の問題もあるわけですが、本人としては、まだ10年は早いということで、こらえておくれよということでは言われましてね。そのときはそれで物別れしたわけですが、今後もまたそういう機会をつくって、そしてPRをしていただくように努めてまいりたいと思うんですが、今年の正月にはそんなことでしたので、壁が意外に厚いなと感じたわけですが、

以上でございます。

○議長（石橋英和君）17番 松本君。

○17番（松本健一君）壁は厚いですよ。でも、まず頼み方だと思うんですよ。先ほど、部長の答弁の中で、地元の行事に参加してほしい、来てほしいという声かけをするのか、今回のように、観光大使という名前を受け取ってくださいということをお願いするか。地元に戻ってきて顔を売っていただくよりも、市外でPRをしていただいたら、一言でも橋本市というふうに言っていただいたら、これほど効果の上がるものはないかと思います。

そういった意味で、尋ね方をできる限り負担のかからないように、これは部長にも事前の聞き取り等でもお願いしておりますが、市長のほうから、本当に橋本市にとって、あなたの存在は大きいんですよ。それを何とかお願いしたいと。この名前だけ、観光大使という名前だけ受け取ってくれよということをお願いしてみたらどうかなと思いますが、その点はどうでしょうか。

○議長（石橋英和君）市長。

○市長（木下善之君）お説のようなことで、今年の正月には小一時間ほど話をさせていただいて、いろいろの角度から申し上げたわけですが、一度来ていただいてということは大変なことであろうと思いますので、そういう点も配慮して申し入れてみたいと思います。

しかし、写真は来ていただいてしたときに、なんとあの市役所の玄関で二、三十人が歓迎したんですよ。それは一切写真は撮らんといてくれということを言われまして、それを了解してくれやんだったら車の中から出てこないんですわ。ほんで私ら、副市長もおってくれたんかな、私らだけは二人、それは市長室へ写真は置いてあるんですけど、それは認めてくれたんです。そんなんで、ほかの人と一回歓談してよと言うても、それは事務所の了解を得てないので、できませんというてね。そいでしゅうしゅうと帰りましたわ。大分扱いにくいですな。

今後とも一回忘れんとお話します。

○議長（石橋英和君）17番 松本君。

○17番（松本健一君）そうですね。扱いにくいほど有名人だと思います。その点を考えると、プロフィール、インターネットとかでも見れるんですけど、そこに橋本市出身と書いてあるだけでもありがたいなと思うんです。そこに観光大使と付けていただいたら、もっとありがたいなと。この点だけお願いさせていただきたいなと思います。

続いて、3番目の質問の答弁を求めます。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目3、紀見小学校「わくわくサマースクール」とエアコン設置に関する質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君）紀見小学校「わく

わくサマースクール」のこれからとエアコン設置についてお答えいたします。

紀見小学校で夏季休業中に行われている「わくわくサマースクール」は、子どもの居場所づくり、児童と地域との交流、児童の体験活動の充実等を目的として2年前に始まりました。地域の方々にボランティアで講師をお願いし、今年は8月中旬に延べ49講座が設定され、夏休み中の児童ら延べ1,500人が受講するまでに充実しています。

中でも体操など体を動かすことを目的としたものや、屋外講座などを除き、作業を伴う工作や調理といった講座は延べ26講座あり、全体の5割強を占め、そのほとんどが図工室や調理室を使用しています。

これらの活動については、広範囲な公民館区において地域コミュニティと児童との密接なつながりを形成する有効な取り組みとして認識をしており、今後も発展的に継続することを期待しています。

このように、地域コミュニティと児童との良好な交流環境確保の観点から、紀見小学校においては、これら特別教室のエアコン設置については今後検討していきたいと考えています。

また、中学校のエアコン設置については、これまでに概算的に試算したところによりますと、全7校のエアコン設置に係るイニシャルコストは総額で約6億6,000万円、電気代等のランニングコスト年間増加額は約2,800万円と試算しています。一方、小・中学校の学習環境の向上に向けては、築後30年を超える学校が半分を占め、屋上防水やトイレの洋式化をはじめとする課題も多く、これらに対応するためには相当の財政出動の必要があると認識しています。

このようなことから、エアコン設置については、現時点ではこれら整備課題のうち、最

優先順位としての位置付けをしていないのが現状です。しかしながら、教育委員会といたしまして、市内の中学校の現状を踏まえ、これら整備課題に適切に対応していきたいと考えていますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

○議長（石橋英和君）17番 松本君、再質問ありますか。

17番 松本君。

○17番（松本健一君）今、サマースクールの説明もしていただきましたけれども、そもそもスタートの段階で、公民館のサービスが、ここは本当に希薄になってしまっている現状がありました。城山地区公民館までどうしても遠い。だから行きにくいという面と、それともう一つあったんです。これは公民館の審議会のほうでも私のほうから言わせていただきましたけれども、さつき台、菖蒲谷、みゆき台、この三つは、小学校区は一緒でありながら公民館区は橋本地区になってしまっていたということで、実質は紀見地区公民館と行事的には同じようなことをする環境にありながら、情報だけは別の情報が来ていた。私、区長だったときに、この点に関しては回覧だけでも流してくれということをお願いさせていただいて今に至っているんですけれども、実質的に公民館の城山のほうで聞かせていただいても、やはりこの三つの地区から来られている方が多いという現状がありました。

これ、ちょっとややこしいんですけど、公民館区で、先ほどの三つが橋本地区に入ると、この人口をちょっと計算してみたんです。橋本地区の現在の対応人数が橋本地区公民館で8,861人、紀見地区が1万2,280人、これは7月末現在の人口で計算してみたんですけど、それぐらいになります。でも、これを中学校区で仮に見てみると、橋本地区は2,300人ほど減って6,710人、紀見東中学校区は1万4,429

人。1万4,000人が一つの公民館の実態としてサービスを受けています。

そういった中でいくと、本当にこの施設自体がキャパオーバーになってしまっていると思います。その中で、これを何とかやろうと。今の小学校区の、小学校の問題を解決するにも、地域の方々の力を借りないといけない。この地区の問題点としては、公民館のサービスをやはり拡充すべきだという意見が、学校との問題解決の際に導いて今日に至っております。

そういった意味で、この公民館区の見直しは7月の審議会の際に申し入れをさせていただいたところ、その審議会の会長も、それは即刻は正をすべきだということで、春までに教育委員会、公民館の、中央公民館として対策を必ず回答するよというふうに申し伝えられていると思います。

そういった中で、こういう公民館のありようというのは本当に必要だと思います。これを中学校区に直すと1万2,000人から1万4,000人になってしまうというところで、先ほどの答弁だと、今後検討というふうになっておりますが、これは私は即刻やっていただきたい。公民館を建てろというふうなことを言っているわけではないんです。今の小学校を、何とかコミュニティのものにしていこうと。それをしやすい環境を整えていただいたら、行政コスト的に言うと何億も何十億円もかかるような建物を建てずに済むんですよという提案なんです。

その点に関して、教育委員会ばかり責めると問題あると思うので、当局側、こういう地域の工夫で財政コストを抑えようと、自分たちで何とかこの地区の財政を抑えて活用を始めようというところは、助けようというおつもりになりませんか。その点、当局側にお聞かせいただきたいと思います。

○議長（石橋英和君）副市長。

○副市長（清原雅代君）この点につきまして、まだ教育委員会とは何のすり合わせもできておりません。先ほど教育委員会のほうからご答弁をさせていただきましたように、教育施設については、まだまだいろんな改修であるとか、あと、以前から橋本の給食センターの件につきまして、いろいろと議員のほうからもご提案をいただいております、やはり優先順位を付けた計画を立てながら、計画的に進めていく必要のある案件がたくさんございますので、今後、教育委員会とも調整を図りながら、地域の皆さんのおっしゃれることも一定理解はできますので、検討をさせていただきたいと思っております。

○議長（石橋英和君）17番 松本君。

○17番（松本健一君）教育委員会からその提案があったら考えていただけるというふうな答弁だと受け取らせていただきます。

先ほどのトイレの洋式化の話がございましたけれども、紀見小学校区、紀見小学校では月1回、トイレ掃除に学ぶ会というので、トイレに関してはクレーム、他校であるようなどうしても洋式トイレでないといふところの意識を変えようと、親であったり地域の方々様が月に1回でもトイレを磨き上げようと。教育長も手で磨いていただいたと思えます。本当に、そういう活動から子どもたちの意識というのがどんどん変わって行って、5年ぐらい前、トイレの問題というのはそこかしこで聞いてましたけど、今、やっぱりないんですよ。あまり聞かないんです。そういう意味で、逆にエアコン何でないんやろうなというのがすごく聞かれるところなので、こういった点は、本当に地域のコミュニティをつくりあげていくために必要不可欠な設備だと思いますので、どうか教育委員会として、声を聞いていってあげてもらいたいと思いま

す。

それに関して、できたら教育長のご答弁をいただければと思います。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（松田良夫君）紀見小学校の取り組みは、今、学校が抱える課題、あるいは地域が抱える課題に真正面から向かっていただいている取り組みだと思います。あの取り組みは、ユネスコスクールとしても本当に全国に発信できる、そういう中身の濃い取り組みであると。そういう意味で大変紀見小学校の取り組みを評価しているのが教育委員会です。そういう意味でも、そういういわゆるコミュニティの活動場所として施設的に充実しているということも非常に大事な課題であるという認識は持っております。

和歌山県内に九つ市がございます。その9市の教育長が寄ってエアコンについても盛んに協議するんです。やっぱりエアコン整備については、9市とも十分できてないというのが現状でございます。その中で、いわゆる近い将来を展望した形で、エアコンの設置についても教育委員会として考えていかなければならない重要な課題であるなという、そういう認識を共有した教育長会がつい先日もございました。そういう状況ですので、今後、いわゆるコミュニティなり子どもの学ぶ場の環境整備の充実、そういう観点で教育委員会も考えていきたい、そのように思っております。

○議長（石橋英和君）17番 松本君。

○17番（松本健一君）お願いします。設備面というのは、本当にまずは基本的なところ。なぜサマースクールにしたか。これ、2年目から実はしているんです。地域ふれあい事業をなんとかやろうと。私もはじめにドッジボールを教えに行ったりとか、カヌーもその一つでした。実際のところ、学校がやるとなる



と、学校行事が本当に多くて、PTAで入っても、今年2年目を迎えましたけど、本当に感じるんです。毎週、ほぼ毎日学校に行ってるん違うのかなと思うぐらい忙しい毎日になります。

そういう中で、校長先生、教頭先生というのは、その準備に本当に奔走されている。その中で、年間を通じて地域ふれあい事業であったりを行うとなると、本当にこれは難しいと思うんです。橋本市でこういった事業を行っている地区としては、コミュニティ助成の事業があったと思います。それで、高野口のほうはコミュニティ推進員ですね、たしか。学文路のほうも、これはボランティアでやっただけだと思っています。こういうところで、人的な補充、コミュニティを推進するための人的補充、これは公民館の役割を果たすためには最低1人でもいただけないかなど。その点、学校を支援する、それと同時に地域を支援するという見方も必要だと思うんですけども、その点はいかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）教育長。

○教育長（松田良夫君）県のほうで、きのくに共育コミュニティ、これは文部科学省の言うところの地域学校支援事業というんですけども、これは国・県から補助金がいただけます。その補助金は、主たる用途目的は何かといったら、コーディネーターなんです。いかに学校とボランティアで支援者をつなぐか。これが学校を核にした地域コミュニティづくりの一番重要な核になると思います。

例えば、紀見東中学校が、そのきのくに共育コミュニティやりますと手を挙げていただいた場合、そういう予算を付けることによってコーディネーターを配置することができるんじゃないかと、そのように思っています。橋本市としては、高野口中学校区をきのくに共育コミュニティの第一番目の取り組み

校にしました。そして、二番目の学文路中学校区は、私たちは予算要らん、自分たちでやりますと手を挙げてくれました。そして、その次、やっぱり次の中学校区もきのくに共育コミュニティ事業に参画していただきたい。そして、地域と学校をつなぐ活動を活発にさせていただく中で、学校を変え、子どもを変え、地域が変わっていく。そういう取り組みをさらに幅広く展開したいという希望がございまずので、紀見東中学校区にもそういった取り組みができないかということ働きかけていきたいと思っています。これは1校では無理なんです。中学校区の指定ということになります。そういうことも考えていきたいと思っています。

○議長（石橋英和君）17番 松本君。

○17番（松本健一君）そういった事業を有効に使っていただいて、できる限り地域のコミュニティが築けるように、持続できるようにサポートをお願いしたいと思います。

そうしましたら4番目の質問に移ります。

○議長（石橋英和君）次に、質問項目4、橋本駅前地区市街地再開発事業に関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（大倉一郎君）登壇〕

○経済部長（大倉一郎君）橋本駅前地区市街地再開発事業の再開可能性についてお答えします。

橋本駅は、高野山をはじめとする周辺の世界遺産を訪れる観光客や、通勤・通学客など、1日約1万4,000人が利用する和歌山県の東の玄関口とも言える駅です。しかしながら、橋本駅前整備事業には多くの課題が存在し、現状ではあまり進んでいない状況です。

平成24年12月の経済建設委員会で、現状と市民の意識調査、今後の課題について整理した橋本駅前商店街活性化計画をご報告しました。この計画の中で、駅前の活性化に向けて

の現状課題として、駅前利用者の8割の人が駅及び駅前で滞在する時間が30分未満となっていることから、観光客も含めた来訪者を駅前から商店街へ誘導する方策が大切であると考えられています。

そのためには、これまでの整備経過、地元商店街、住民の考え方を十分に理解、整理した上で、まちづくり、商店街づくりの計画を検討しなければならないと考えます。その計画策定には、議員ご指摘のとおり、他市町村の事例に学ぶ必要もあると考えています。

状況は違うものの、地域の再興という観点で、全国各地のまちや商店街が、「このままではだめだ。何とかしなければ」とやる気を持った人たちが立場や肩書き、年齢を超えて集まり、真剣に議論し、正しい再興の姿を描き、具現化する活動が行われています。「まちづくりは人づくり」とよく言われます。本市においても、駅前商店街の活性化に積極的に協力したいという意思を持っておられる人を見出し、その気持ちをどのように吸い上げ、まちの未来を自分たちの手で創造する行動につなげられるかが、駅前活性化の基幹となるように思われます。自らが原動力となって汗をかくてくれる市民を巻き込んでいく仕組みづくり、資金も含め民間の力、市民の力をどのように取り込んでいくかをしっかり考えていくことが必要でないかと考えます。

○議長（石橋英和君）17番 松本君、再質問ありますか。

17番 松本君。

○17番（松本健一君）今、部長におっしゃっていただきましたが、経済建設委員でもあったときに、この活性化に関して報告をいただきました。そのときも言いましたけれども、計画、立派な報告書をいくらまとめたとしても、そのまちは必ずしもそのようにならない。パースに書かれてあったように、人がそんな

たくさん、今の状況でこの図のようになりませんかというふうに聞かせていただきました。

どうすればそういう絵に描いてあるぐらいの人たちが集まっていただけなのかというところで、橋本市にとってみて、この駅前というのがどのような受け皿となっているのか。この点をはっきりと整理しておかないと、ただ土地の市街地第一地区の土地区画整理事業を終了したところで、これは短冊形の土地を皆さんに、地権者に分けてしまう。あとはどうぞ好き勝手にやってくださいよという形になってしまわないですか。その中で、こういう計画を行政がまず皆さんと考えてやっていきましょうという姿勢を示さないと、こういった計画は実現しない。それが結果的に、行政が主導となり過ぎてデベロッパーを使ってつくったはいいけれども、地域の方々は思っていたようなものにならなかった。そこに住んでいらっしゃる方以外の市民の方々、地域の方々もそこを使うことがない。住民不在の計画ができ上がってしまうんだと思います。

そこで、今回出させていただいた飯田市の事例でいくと、まちづくりカンパニーというのをつくられて、地域の方々とともに、このまちを一緒に考えてつくっていきましょうというふうに取り組んでおられるんです。

先日も、テレビを見ていると、新宿区の富久町というところの再開発計画が2年後に完成するという報道がされておりました。これはかなり老朽化した地域、空き家も多く、なかなか意見をまとめるというのは約20年ほど前だと難しかったそうです。その中で、まちづくり会社というのができ上がって、そこを中核として地域の方々の意見を入れて、下はテナント、もう2階ほどだーんと大きな土地で、上にはもう一つ住居、まちをつくるんです。その上に一戸建てのように建てていくことによって、コミュニティを維持したま

まつくろうという、これまで見たこともないようなまちを構想、つくられて、今、工事ももう始めておられます。

すごく楽しみにしているんですけども、こういった地域の方々と周りの期待を生むような取り組みを、行政がまず声をかけて市民の皆さんの知恵をお借りしたい、そういうふうな取り組みが必要だと思います。そのためには、さまざまな講演会、こういった高橋さんのような先駆者の方をまちにお呼びして講演会を一度やってみる。それぐらいのことがあってもいいと思いませんか。その点はどうでしょうか。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（大倉一郎君）今、議員おただしのとおり、橋本の駅前につきましては、昔のにぎわいというのは、ほとんど今のところ、本当に今ないような状態になってきているのかなと思います。

まちづくりというのは、先ほども私、ご答弁させていただきましたけども、人づくりというようになってきます。地元住民と一緒に力を組みながら、橋本市も一緒に入った形で取り組んでいく必要があると思います。いろんな取り組みをしていく上では、地元の住民のほうに入ったような取り組みを今後していかななくてはならないのかなと考えます。

以上です。

○議長（石橋英和君）17番 松本君。

○17番（松本健一君）積極的に外の知恵を借りていただきたい。中からなかなか自分からやろうという人たちというのは、今現状のあそこの状況を見て、発想ができないようになってしまっていると思います。そういった意味で、まず外からの力を有効に使っていただけるようにしていただきたいと思います。

そういった点で、再開発を、取り組みをち

よっとでもスタートさせようというのは、その現状、この中心市街地第一地区土地区画整理事業、この休止区域を来年の春にはちゃんと決めて、ちょっとでも動かさなあかんというところがあるかと思います。建設部長にお尋ねしたいんですけども、この再開発事業なしに、まちの活性化というのはできるとお考えでしょうか。その点、建設部長の見解を求めます。

○議長（石橋英和君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）この橋本駅前地区については、休止区域というところで平成16年に一旦事業をストップさせていただきました。その経過の中で、橋本駅前で当時再開発ビルを建てる、組合型で再開発ビルを建てるという計画とセットで区画整理事業も計画されていたわけなんですけども、その再開発事業が、組合も解散し、無くなっております。

そういった中で、橋本駅前の区画整理をする目的そのものが、非常に見出しにくい状況にあるのも事実でございます。

そういった中で、今、逐次段階的に休止区域の整備方針というのを説明もしかけてはおるんですけども、もう少し具体的な案がないと、住民としてもどういうふうに考えていいかわからないという意見が多数寄せられております。そういったところで、本年度中に地元関係者の方へ、ある程度具体的な説明ができるような案を市で策定して、それをまず住民のほうへ説明させていただく中で、いろんなご意見を頂戴し、吸収し、反映できる場所があれば、そのようにしたいと考えます。

そこで、議員おただしの、今からでも新しい目標が設定できるかどうかというところが一つのキーポイントになると思います。この再開発事業がなくなりましたことで、正直、橋本駅前を今後どのようにしていくかという

のは非常に難しい状況ですので、ただ、そういった再開発事業ができなければできないなりに、やはり経済部と連携しながら、本市としての玄関口であります橋本駅周辺を、何とか玄関にふさわしい姿に持っていきたいというふうには考えたいと思いますので、今後の状況次第で検討すべきことかなというふうに考えます。ですので、この事業があるなしでどうやというようなご質問につきましては、現在では非常に答えにくいというところでご理解いただきたいと思います。

○議長（石橋英和君）17番 松本君。

○17番（松本健一君）私もこの事業を知ったときに、過去の議会答弁をチェックいたしました。やはり、平成16年、17年前後は、この二つの事業がなければ地域の活性化にはつながらないという答弁ばかりが当時の市街地開発所長から答弁がされ、議会でも平成11年をはじめとして、視察を4箇所ほど、調べられる限りでは行っておられました。当時の議員の方々は、もうほとんどここにはいらっやしません。それは当局も同じです。

そういった意味では、ここで、それをだめだと言うてるわけではなくて、一旦リセットして、本当に新しいまちづくりをこれから考えていこう、これは今スタートしなければ、20年後にまちというのはないわけで、このまま本当に20年後を迎えられるかどうか、そういった意味では、今がすごく大切だと思うんです。働きかけというところも築き上げです。人づくりというの、必ずしも建設部長がおっしゃられた地域への説明、地域とおっしゃるんですけども、そこに住んでいらっやる方の合意形成は確かに必要です。しかし、周りにもその意識を持ってもらわないと、私たちのまちの一番中心地であって、一番利便性の高いところなんです。

今回の質問の第1回目の中に、中央公民館

と図書館を挙げました。この問題は、橋本市の市民当たりの図書の冊数は1.92冊です。お隣の河内長野市は4冊を超えていたと思います。この教育、まちづくりをしていく上では、図書館というのは本当に必要な機能なんです。地域の小さな子どもたちが使っていただける図書室の機能と、それと中央に、本当に地域の方々が知恵をそこで得るための図書の機能が要ります。現在の冊数では残念ながら届いていないなと思います。

そういった意味で、地域の方が公共交通機関をたった二駅区間でここを使うことができる場所というのは、あそこしかないんですよ。特に、飲食業をされている方々も飲酒ををすると、皆さんもう代行を使うしかない。そうするときっかけがないんです。飲みに行こうという、皆でという。そういうところも、あそこに集まれば、あそこから電車を二駅乗ればみんな同じで交流ができる。それは大人も子どももみんな一緒です。中学生も図書に触れたいなと思ったときに、学校が終わってからコミュニティバスを使ってもらってもいいです。バスを使ってもらってもいいです。みんなが使いやすい環境にあるかと思います。そういった意味で、公共施設をあそこに入れるという、まずは頭を持って動いていかないといけない。

それと、民間の力を借りていくということ、ここを置いて当初の再開発計画を、平成11年の4月の分を見させていただくと、50億円かかるというふうに書かれてました。それも現在では、恐らく、もっと知恵を使うと50億円のうちの負担はどんどん減らせるはずなんです。市が持ち出す分は減らしていけます。その辺の知恵も付けていっていただきたい。

そういった意味で、この事業は本当に大切だと思います。ここに取り組みなければ、まちづくりはないかと思っておりますので、私の考え

方としては、これでまとめさせていただきたいと思いますが、市長、一言何かありそうなので、どうぞ。

○議長（石橋英和君）市長。

○市長（木下善之君）松本議員の再質問でございますけど、確かにそのとおりでございます。和歌山県の東の玄関口にふさわしいまちづくりという、やはり橋本の駅前、これがやっぱり中心になろうと思います。

私も地元駅前筋をちょいちょいと後にも行って意見を聞いておるんですけども、何年かかってでもこれはやってほしいという中で、決定はしておりませんが、希望としては、あの前の農協の土地ありますね。あれをやはりまず種地として取得していただけたら一番よろしいと。それによって、我々も積極的に対処していきたいんだというお考えもあるわけでございますし、私としては、やはり高野山の麓ということであるだけに、できれば橋本の駅前をそういうふうの開発して、そうして高野山行きバスをね、橋本駅発で高野山を経由田辺白浜行きというバスを、やはりいくつも、向こうからはまた高野山経由橋本行きというようなバスを向こうからも出していただくというようなことで、私は20人ぐらいのバスでしたら、やどりのほうを通過

いくし、そしてそれ以上の人数があるようになつたら、また大きなバスをね。今度やっばり480号を回して、左岸農道から行って480号から乗せていく、回るとか、いろいろの方法があると思うので、要はそういうことも考えあわせて、やはり再開発というのはしていかなければならないかと、そうも思っておるわけでございますので、今後とも議員の皆さんのお力添えをよろしくお願いをしながら、良かったなというようなまちづくりをしてみたいと思います。

○議長（石橋英和君）17番 松本君の一般質問は終わりました。

○議長（石橋英和君）初日でお疲れだと思います。

お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ延会し、明9月10日午前9時30分から会議を開くことにいたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（石橋英和君）ご異議なしと認めます。

よって、そのように決しました。

本日は、これにて延会いたします。

（午後4時23分 延会）